

◆私のカンボジア支援（2001年からカンボジアで支援開始、住田代表理事の回顧録）

—その10— 「夜中にお米を盗まれた！！」 2005年

WFP本部から食材をいただいて朝給食を始めて半年ある学校から通訳に電話が入りました。まだ電話も普及していない時代に田舎の学校から電話があるのは普通にはないことです。「夜中に泥棒が入った。教室の鉄格子が切られて、お米と油が盗まれた。どうしたらいいか？明日の朝給食も出来ない。」

泥棒が入ることを予想して、学校の教室には全て鉄格子を入れてあり、扉には施錠してありますが、見事に鉄格子が何カ所も切られて、人1人が入れる穴が開けられています。

実際に盗まれた食材は、60kg入り米袋3袋、200入り油缶3缶、鰯の油漬け1箱（24缶）でした。

村の警察官も来ましたが、犯人を捕まえることも、品物を取り戻すことも絶望的でした。

村長・長老、学校委員会・校長と話し合っ、食材を保管する教室の格子を鉄棒で補強、扉には鉄格子の扉を付ける。村人の夜回りをこれまで以上に強化する。

不足したお米の補充は村で行い、朝給食を継続するというになりました。

給食食材の盗難は無くなりましたが・・・さらに。



WFPトーマス所長(左)と住田とカニタ担当職員(右)



WFP支援食材

日本からの支援食材

◆食材台帳の記載がでたらめだ！とWFPから叱られる。

盗難問題が解決したのもつかの間、新たな問題が発生しました。

朝給食の実施にあたって「食材はWFPが無償で提供する。実施する全ての準備と学校への指導は、当団体で行う。」との約束をしていました。炊事小屋は学校が、鍋釜・計量器・調理用品は当団体が準備し、これらは順調に行われていました。問題はWFPへ提出する食材台帳の記載でした。

「毎日の食材使用量の算出が出来ていない。使用した食材量と残量の合計が、配給量と合わない。」のです。台帳を見ると全然合っていません。弁解のしようもありません。

計算出来る先生を選んで給食担当として、計算の仕方等は教えて練習もし、記載の仕方も教えてはいたのですが・・・

毎日の食材規定量は、米は前日の出席者数×100g 油は×7g 塩は×3g 鰯は×10gなのですが、この計算を“間違える”のですが、加えて“不正使用”も考えられました。

調べると「近所の方がご飯を貰いに来ていた、校長や調理のおばさんが家の夕食に持って帰って食べた、村祭りや村の行事に給食の米を炊いて振る舞った、地区長選挙時に活動員の昼食に使った」などが判明しました。郡長以下村人を集めて、子どものための給食以外の使用（村人に配ることなど）を厳禁しました。不正使用した米は、郡長・地区長・村長・校長に弁償してもらいました。

給食担当の先生の“計算ミス”や“いい加減な記載”もありました。

担当の先生には30kg/月の米がWFPから支給されるため、学校を牛耳っている年配の先生がやっていたのですが、年配の先生は元農民で、読み書き計算が1年生に教えらる程度の知識しかありませんでした。解決策として給食担当の先生を、師範学校を出た若い先生に代えたところ、毎日の使用量や台帳の記載が正確になりました。

これで一件落着です。

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

- 三菱UFJ銀行 神保町支店
口座番号(普) 0968555
- ゆうちょ銀行 00110-2-767497
口座名: 公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載（ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>）しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019 E-mail: info@ssfc.or.jp



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「よにゆむ通信」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



SSFC Cambodia

ញីម によにゆむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゆむ通信

2019年10月号 No.22

公益社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-44
第二石坂ビル502
TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019
E-mail: info@ssfc.or.jp
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆スレイ・ビボケイ中学校の校舎が完成！（次号で贈呈式をお伝えします）



BEGINNING TO DREAM SCHOOLの完成です。

2019 10 17

■大江電機株式会社様のご支援に感謝

スレイ・ビボケイ中学校は生徒数約266人、先生8人、各学年は1クラス70～80人の学校です。トタンの教室や青空教室で授業をしています。学区の村は貧しくて農業の手伝いや出稼ぎで生活しています。電気も来ていません。ビボケイ中学の先生は他の学校で一般的に行われている「生徒に教科書を写させるだけの自習授業」は一切行っていません。どの先生も自作の教材を用意し、工夫して授業をしています。「今日の授業で教えたことは、授業中に理解させ覚えさせる！」を目標にして教えています。学校で教えられた内容が解っていない生徒には空き時間や放課後に補習をして教えています。他校のように“生徒からお金を取って教える塾”もしていません。しかし、せっかく優秀な生徒を育てても、高校が遠いために中3生徒の3分の1しか高校に進学しません。

今回、幸いなことに、2012年に現在のスレイ・ビボケイ小・中学校校舎の建設をしていただいた大江電機株式会社様のさらなるご支援により、これまでにない立派な綺麗な設備の新しい校舎が完成しました。



壁面にSSFCのロゴを下書きも無く、

いきなり手描きで描いています。

とても正確で上手です。脱帽。

SSFCのロゴマークを入れれば完成です。

ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆校舎が完成するまでの様子 ■隣の建設予定地は、お寺の所有する土地でした。



校庭の校舎建設予定地

ここはお寺が提供してくれた土地です。中学校校舎を建設するにあたって、村長・村の長老・お寺の長老・学校委員会会長・校長が集まって相談して校舎を建てる位置を決めました。校舎の土台や柱は頑丈に造ります。穴は1m四方、深さ1.5mです。そこに補強の鉄筋を組みます。5教室の校舎全部で40本の柱のために穴を掘りました。村人も穴掘りに従事することで仕事(日当)が得られることとなります。



集まって相談する長老たちと



校舎の柱を立てる穴を掘り、鉄筋を組む。

立ち並ぶ校舎の柱

◆壁・床と着々と工事は進みました。

校舎の壁に使うレンガの中には、4本の丸い穴が空いています。これは日中40度を超える熱をレンガの空洞により室内に伝えない断熱材の役目もしています。これにより教室の内部は外の気温より低くなります。この上にモルタルを塗って仕上げます。屋根の垂木はアルミの角材で、屋根瓦の幅に合わせて並べて溶接します。その上にコンクリート瓦を載せますので、重さに耐えられるように頑丈に造り、針金で瓦を固定します。床にコンクリートを打つ前に、ひび割れを防ぐため太い鉄線で20cm格のメッシュで教室と廊下の部分に敷き詰めます。その上に厚さ10cmのコンクリートを打ちます。



垂木は頑丈なアルミの角材です。 2019 07 11



レンガを積み重ねて壁を造ります。 2019 06 12



教室・廊下の床にコンクリートを打ちます。

「生徒によくわかる授業」をするために、先生たちはいろいろな資料・教材を作っています。しかし、それを張る場所もなく、黒板にテープで止めるなどしていました。そこで白板の両脇に資料を止める掲示板(青いボード)を作りました。先生たちも大喜びです。資料を入れる戸棚も用意しました。生徒たちはゴム草履で登校します。廊下の前で草履を脱ぎ裸足で教室に入ります。廊下の前には生徒たちのゴム草履がズラーと並びます。そこでSSFCでは下駄箱も寄附して使い方を先生と生徒に指導しています。



下駄箱も作りました



廊下もタイルでピカピカ



教室内に戸棚、先生の机・白板と掲示を設置

◆奨学金給付生徒が決まりました。

今年度もバコン郡のランサイ中学とヴィボケイ中学の2校の生徒に給付します。担任の先生が推薦して校長先生が承認した生徒をSSFCが個人面接して成績等を聞き、家庭を訪問して家族構成・全収入・親の教育意識・家屋の状況・生活程度を調べて決めています。

ランサイ中学3人(新規1人・継続2人)ヴィボケイ中学16人(新規8人・継続8人)※詳細は12月号で。